

特集

どうなる?! 今年の就職

新澤育友会長から 渡辺キャリア形成支援課長へ 緊急質問

外出禁止、活動自粛…コロナ禍で私たちの生活は大きく変化しました。その大波は就職活動の時期とも重なり、ウェブによる説明会、面接など、就活生もその対応が求められました。

ウィズコロナの時代の就活とは——6月上旬、ご父母・保護者を代表して新澤千佳子育友会長が、渡辺正志キャリア形成支援課長にお話をお伺いしました。

※今年度より、キャリア支援と就職支援を融合させ、ワンストップの学生サービスを実現するために、キャリアデザインセンター事務課と就職課は「キャリア形成支援課」に統合しました。

育友会長

新澤千佳子

キャリア形成支援課長

渡辺正志

コロナで激変した就職環境

新澤：私の息子も現在4年生で就活生です。就職活動については心配な報道も目にします。コロナ禍によって、学生の就職環境にはどのような変化があったのでしょうか。

渡辺：3月解禁の合同企業説明会においては、まずリクナビが中止する判断をして、マイナビもそれに続きました。実施したのは学情のみで、大規模な合同企業説明会がほとんど中止になりました。

マイナビ、リクナビの情報によれば、4月時点で新4年生の採用計画を変更する企業は多くありませんでした。しかし、5月に入ると採用を見送る、もしくは延期するという企業も出てきました。ただ、6月現時点での就職環境は

まだ悪くないです。6月1日採用選考の解禁と同時に、企業から大量のメールが届いたという学生からの情報も入っています。

新澤：6月に入って採用選考が動き出したのは、よい兆しと言えるのでしょうか。

渡辺：この6年間くらい売り手市場が続いてきて、特に中小企業は、予定数の新入社員を採り切れていません。ですので、リーマンショックのときほど就職環境は厳しくはならないと予想しています。

5月末時点での専大生の内定率は39.4%で、前年の42.8%と比べて大きくは変わらない。就職氷河期に比べれば良好といえる数字です。ですので今の4年生は、しっかり就職活動をやってくれば内定は取れると思っています。ただ、来年以降は厳しくなるかもしれないです。

新澤：業界、業種による就職環境の違いなどは

ありますか。

渡辺：報道されているように、コロナ禍により航空業界はフライトが激減し大打撃を受けました。全日本空輸（ANA）、日本航空（JAL）などの航空各社が採用活動を見送っています。同様に旅行、運輸、小売、ホテル業界などで経営環境が悪化したところが多く、採用にも影響しています。

我々、キャリア形成支援課としては、例えばホテルに就職したいという学生がいたら、なぜホテル業界がいいのかを突き詰めて考えてもらうように促します。その理由が「人のために何かをするのが好き」というホスピタリティの精神にあることに本人が気づけば、それが発揮できる仕事はほかにもありますので、そこで新たな選択肢が広がります。

新澤：業界にとらわれず、広い目で見れば、悲観すべき状況ではないということでしょうか。

渡辺：そうですね。業界という分類はあいまいです。例えば株式会社明治は採用予定数にMR職が多い。MR職とは医学情報担当者の中で、株式会社明治は医薬品メーカーとしての側面もあります。食品メーカーとしてだけ見ていたらそのことには気づきません。業界を絞らず、自分の気持ちに合う企業を探していただければと思います。

ウェブ化が一気に進む

新澤：コロナの影響で、就活のウェブ化が進んでいるようですが、実際には、学生たちはどのような就職活動を行っているのでしょうか。

渡辺：ウェブで企業説明会に参加した、面接を



受けたという学生は多いです。面接は、ビデオ会議システムの「Google Meet」や「Zoom」、ウェブ面接に特化した「インタビューメーカー」などを使って行われています。

新澤：実際に企業に足を運び、雰囲気を感じるからこそわかることも多いと思いますが、学生はウェブで本当に自分に合った企業を選べるのでしょうか。

渡辺：ウェブでの就職活動は一長一短だと思います。従来のように実際に足を運ぶとなると企業訪問できるのは1日に3社が限度だと思いますが、ウェブならば移動がない分、より多くの企業と接点を持てます。そして何度でも話を聞けるというメリットもあります。

企業側にとっても会場の制限がないので、より多くの学生と接点を持てるというメリットがあります。ただ一方で、ウェブだと相手のことがわかりづらいという企業担当者もいます。学生の表情や手の動き、姿勢、声の勢いなど、直接会うのに比べて、画面を通すと得られる情報が少ないという面もあり、企業側も苦労しているようです。





中には最初から最後までウェブでの面接という企業もあります。ただ、最終面接だけは直接会うという企業は少なくない。学生も、そういうわずかな機会を活かして、企業を判断する必要があります。

実は、子供の頃から動画サイトやSNSに慣れ親しんだ学生の方がウェブ面接に抵抗なく、スムーズに適應しているという専門家の意見もあります。

大学の就職支援

新澤：専修大学のキャリア形成支援課ではどのような就職支援をしているのでしょうか。これまで行っていた就職相談、就職講座、学内企業説明会などは、どうなっているのでしょうか。

渡辺：4月7日に政府の「緊急事態宣言」が出て、大学への入構も禁止となりました。その時、すぐにキャリア形成支援課が打ち出した施策として、コールセンターの設置があります。そして、それと同時にウェブ上に就職相談でよくあるQ & Aの掲載も始めました。これは逐次更新しています。また、就職情報会社から配信される情報の中から学生にとって有益なものをひとまとめにしたリンク集を作って公開しています。

就職相談についてはオンラインで開催し、現

6月5日の時点で、毎日予約で埋まっている状況です。入構制限が緩和された6月3日からは、対面での相談も受け付けるようにしています。

4年生へのアンケート調査の結果では、企業との接点が少ないという不安の声が聞かれました。一方、企業385社へのアンケート調査の結果でも、ほぼすべての企業で採用を継続していて、学生との接点を求めているという結果が出ています。

この結果を踏まえ、キャリア形成支援課としては、学生と企業の接点を作るのが大事なことを考えています。例年ですと、春先から毎月のように合同企業説明会を学内で開催してきましたが、現在はコロナのために1カ所に学生と企業を集めて開催するのは難しいです。ただ、この状況を黙って見ているわけにはいかないので、できることとできないことを精査して、オンラインも含め、大学主催の合同説明会の開催に向けて動き出しています。さらに企業の情報をひとまとめで見られるアプリも用意して、学生と企業のマッチングを図っています。

学生は今、何をすべきか

新澤：現時点で内定を得ていない4年生は、何をしなければいいのでしょうか。

渡辺：コロナ禍に関係なく、よい就職活動をする学生は「動き回る学生」です。多くの企業に行くのも然り、一つの企業に対して様々なアプローチするのも然り。例えば過去の学生には、国会図書館に行ってその企業に関する関連書籍を読んだという学生もいましたし、航空業界で働きたいので地方空港まで往復して、空港ごとの特色を比較した学生もいました。

今は外出しづらい状況にありますますが、逆にウェブでの説明会や面接が多くなり、移動時間がかからなくなっていますので、その時間を利用して、例えば志望企業の有価証券報告書を見て分析したりするなど、より深い情報収集をすることもできます。できることを探して動けば、よい就職ができると思います。

コロナのために10年時計が進んだと言えます。いつか来るだろうと思っていた時代がわずか数カ月で来てしまったために、対応できずにあたふたしている。就職活動がどうなるのか不透明

な部分も多いですが、行動を起こすのが大事なのは間違いない。待っていたら、就職できないというのは変わらないと思ってほしいです。

新澤：できることをやっていくということですね。

インターンシップは行われるか

新澤：では、現3年生においては、就職活動に向けてどのような準備をすべきでしょう。インターンシップなどは、行われるのでしょうか。

渡辺：昨年までは、年々インターンシップを実施する企業は増え、専大生においても7割以上の学生が、1回以上インターンシップに参加しています。株式会社ディスコの調査によると、早期に内定を得る学生の多くがインターンシップルートで、学生が内定を得た企業のうちインターンシップに参加した企業の比率は61.1%になります。インターンシップが本来の社会教育という観点から離れ、採用の手段として利用されるのは残念ですが、インターンシップは企業側も学生のことがよくわかるので、安心して採用できるでしょう。

ただ、今年に関してはインターンシップをやらないという企業も増えてきています。この傾向がどこまで進むかはわからない状況です。

とにかく3年生に対しては、我々も就職活動に必要な情報をしっかり届けられるよう、ガイダンス、エントリーシートの書き方などの就職講座をオンライン型で提供していこうと準備しています。

先が見えない中、不安との戦い

新澤：緊急事態宣言が解除されたものの、コロナは予断を許さない状況です。さらに景気が悪化すれば、内定取り消し等も出る可能性があると思います。そんな時はどうすればよいでしょう。

渡辺：内定取り消しがあつたら、すぐにキャリア形成支援課に連絡をいただきたいです。内定取り消しは本来、企業も簡単にはしてはいけないものです。学生から要望があれば、企業との交渉にも立ち会います。リーマンショックの時には実際に起こりました。その頃からのノウハウもありますので、キャリア形成支援課にご相談ください。



新澤：まだ先が見えない中での就職活動は、学生たちも心配が多く、また企業側も見通しが立ちづらい状況と思います。

渡辺：人がいなければ企業は動かないというのも事実ですので、企業はウィズコロナの中でどう学生を採用するかというフェーズに入っていると思います。学生も将来、給料をもらうためにはどうすればいいかを考えるとシンプルに答えが見つかると思います。つまりは、動くしかないのです。

キャリア形成支援課の利用に関しても、聞きたいことを明確に言えなければ就職相談できないと思っている学生が多いですが、何がわからないかがわからないというのが、一番難しいのです。わからないならそれでいい。「何を質問したらいいかわからないんですけど」と相談に来ていただければ、我々も対応します。キャリア形成支援課を利用してください。

新澤：キャリア形成支援課を、もっと身近に感じて利用した方がいいということですね。

渡辺：我々の夢は、全学生と一回は面談することです。会えば刺激を与えられると思っています。

新澤：お話を聞き、不安が解消されました。大変な状況ではありますが、今後ともよろしくお願いします。